

販促カレンダー<9月> 長月

30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金
福島 九月堂御籠り	十五夜		秋の社日	彼岸明け、和歌山 日前神宮・國懸神宮例大祭			●秋分の日、彼岸中日		秋の全国交通安全運動（ゝ30日）	彼岸入り、動物愛護週間（ゝ26日）		●敬老の日		大阪 岸和田だんじり祭（ゝ17日）	京都 石清水八幡宮 石清水祭	神奈川 鶴岡八幡宮例大祭（ゝ16日）	世界の法の日	福岡 宮崎宮放生会（ゝ18日）	二百二十日		重陽、救急の日、滋賀 多賀大社九月古例祭	白露（ゝ22日）					東京 北澤八幡神社例大祭（ゝ3日）	防災の日、富山 おわら風の盆（ゝ3日）	

がんの経済負担、国内で年2兆8600億円 1兆円は予防できた可能性

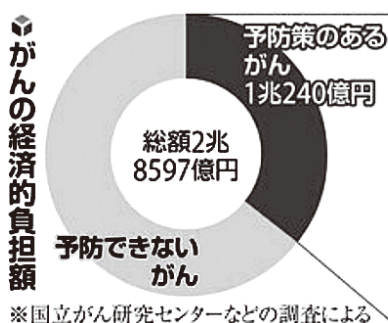
2023年8月1日 読売新聞

同センターによると、予防可能性のあるがんの経済的影響を調べた研究は初めて。研究チームは、2015年に国内で治療を受けたがん患者のべ約400万人について、医療費と、欠勤・休職や死亡に伴う労働損失を推計

国立がん研究センターなどは、がんが社会に与える経済的負担は年間約2兆8600億円、うち約1兆円は予防できる可能性のあるがんによるものだったとの推計結果を発表した。「禁煙やワクチン接種など適切な予防対策を行えば、個々人の命を救うだけでなく、経済的な負担の軽減も期待できる」としている。

最新のがん統計では、年間約100万人ががんと診断され、約38万人が死亡している。日本人の死因の第1位だ。研究チームの斎藤英

した。その結果、医療費と労働損失を合わせた経済的負担の総額は、約2兆8600億円だった。そのうち、予防策のあるがんによる経済的負担は、約1兆200億円。要因別にみると、「感染」が約4800億円、最も多く、「能動喫煙」が約4300億円、「飲酒」が約1700億円、「運動不足」が約340億円、「過体重」が約190億円と続く。感染の中では、ピロリ菌による胃がんが約2100億円、ヒトパピローマウイルス(HPV)による子宮頸がん(けい)がんが約640億円、肝炎ウイルスによる肝臓がんが約610億円に上る。ピロリ菌に対しては除菌治療、HPVに対しては感染を防ぐワクチン接種、肝炎ウイルスに対しては薬物治療などのがん予防策がある。



部位	負担額
胃	2121億円
肺	1598億円
肝臓	722億円
子宮頸部	640億円
その他	5159億円

子・国立国際医療研究センター上級研究員は「定期的ながん検診やHPVワクチン接種、たばこ対策などの意義を、経済的な観点から示すことができた」と話す。五十嵐中(あたる)・横浜市大准教授(医療経済)の話「予防できる可能性のあるがんの経済負担・損失を金額で示した意義は大きい。100%防げるわけではないが、生活習慣の改善など、国民にも予防の重要性が伝わりやすくなる」と話す。



国際経営株式会社
KOKUSAIKEIEI co.,ltd

2023年
9月号



読売新聞オンライン
2023年8月21日

「火葬待ち」深刻化、3割が最長6〜8日待機…遺族の心理的・金銭的負担重く

高齢化に伴う死者数の増加で、遺体を長期間火葬できない「火葬待ち」が問題になっている。業界団体が今年6月に発表した初の全国調査では、6〜8日間の火葬待ちが全国で生じている実態が浮き彫りとなった。

今年1月に父親を亡くした大阪府守口市の女性(50)は「葬儀場から遺体安置に1日2万円ほどかかると言われ、諦めた」と語る。火葬までの5日間、女性は棺を自宅に置かざるを得なかったという。「冬場だったが遺体が傷んだため、化粧で隠して送り出した。できればきれいなまま送ってあげたかった」と振り返る。

ここ数年、人口が集中する都市部を中心に火葬待ちが起きている。厚生労働省の人口動態統計によると、2022年の死者数は過去最多の156万8961人で、前年から12万910

5人増。この10年で死者数は1・25倍と「多死社会」を迎えていることが背景にある。

公益社団法人「全日本墓園協会」(東京)は厚生労働省の補助を得て22年、全国の火葬場と葬儀場を対象に初のアンケート調査を実施。

20年度中に、施設内に遺体を安置したと回答した177施設に、その理由(複数回答)を尋ねたところ、最も多かったのは「火葬の順番が回ってくるまでの待機」で44.1%だった。その火葬待ちの最大日数を尋ねたところ、「6〜8日」が最も多く31.4%。次いで「2日超、3日未満」が16%、「3日超、4日未満」が13.7%だった。

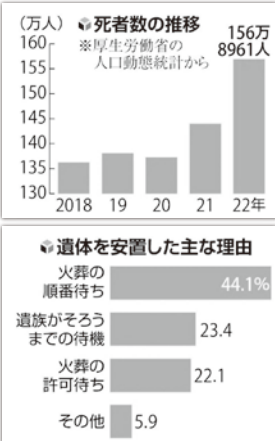
同協会は「調査対象とした20年度はコロナ禍と重なるが、葬儀件数は前年度から増

えておらず、影響はないとみている」と分析している。

人口377万人と国内最大の基礎自治体である横浜市によると、市営火葬場の火葬待ち日数は、20年度は平均4〜5日だったが、22年度は5〜6日に延びた。このため同市は約221億円をかけ、新しい火葬場を建設している。

ただ、横浜市のように火葬場を新設するには、予定地周辺の住民から理解を得なければならず、簡単ではない。また、40年代には国内の死者数はピークアウトするため、新設を検討する自治体は少ない。

調査を行った全日本墓園協会の横田睦・主管研究員は、「火葬場の増設は容易でない。縁起が悪いと避けられてきた友引の日に火葬を行った、空いている時に先に火葬を済ませたりするなど、社会全体で弔い方を考え直す必要がある」と指摘している。



島耕作シリーズの漫画家 弘兼憲史さんが語る

60歳から…

5/5

2023年1月31日
PRESIDENTオンライン

肩書を、断る勇気

定年になったら肩書は通用しない、というのはよく聞く言葉です。でも肩書に代表される過去から離れられないのもまた人間の弱さです。頭ではわかっていても、実行できないというわけです。

タクシーに乗ったときに、運転手さんからこんな話を聞きました。「以前、わたしはハイヤーの運転手をしていました。あるとき、『すみませんが、これから乗せる方を会長と呼んでもらえますか』という依頼を受けたことがあります。上場企業の元会長さんだったらいいのですが」「ハイヤーを利用できる人ですから、経済的には裕福なお客さんなのでしょう。会社を離れてからも「会長」と呼ばれたいことに、なんともいえない「哀れさ」を感じました。でも、この方が特殊なわけではありませ

ん。人は地位の高さに比例して、こだわりが強くなると思っています。実際、わたしも会社などで元大臣や元総理に遭遇することがあります。そのとき「〇〇総理」とか「〇〇大臣」と周りが呼んでいます。日本人の体質なのかもしれません。でも、本来は断るべきでしょう。いや、断る勇気がほしいですね。「わたしを肩書で呼ぶのはやめてください」と。

わたしは漫画家という職業を名刺に書きます。でも幸いなことに、書き込む肩書はありません。わたしのことを「先生」と呼ぶ人もいますが、わたしは何も教えていないので、「先生と呼ぶのはやめてください」と笑顔でやんわりお断りすることもあります。

肩書をとる——そこから、あなたの新しい人生が始まると思いますよ。裸になれ、ということです。

「生と死」を描いた映画・小説・漫画・曲をアンケート ②小説/漫画・曲・言葉編

2023年7月4日 PR TIMES (株式会社 林商会)

前回に引き続き今回は『生と死』を描いたもので印象に残る作品や曲、言葉を選んでいただきました。

●小説／漫画

『フルウエイの森』生きるのと、そのものが上手くできず、苦しみ続けた果てに直子が自死してしまったシーン。(40代男性) 【死役所】死役所の職員の人である「イシ間」さんの話。イシ間の娘は昔強姦され、イシ間はその犯人の少年たちを殺した過去があるが、その辛い過去を背負った娘が幸せに天寿を全うしたことを知ったイシ間が涙するシーン。(50代女性) 【愛と死】

生きていくものは死んだ者に対してあまりに無力。(30代女性) 【最後の葉】最後の葉が散つたら自分は死んでしまうという女性。葉を壁に描き女性に希望を持たせる素晴らしい人が亡くなってしまふ悲哀。(50代女性) 【コウノトリ】施設に預けられる乳児

に対して「君は人の何十倍も苦勞することになるけど、その何十倍も幸せになることができる」と言ったシーン。(20代女性)

心の病・自死・死後の世界・命のはかなさ・希望に満ちた可能性の誕生…テーマや世界観は作品ごとに異なりますが、世界にたつたひとつしかない命の大切さを考えるきっかけとして、手に取ってみてはいかがでしょう。

●好きな曲・印象に残る曲

『千の風になつて(秋川雅史)』そこに私はいません眠ってなんかいません、千の風になつて吹きわたっていますというフレーズは亡くなった方の心の解放を描いているように、弔う側も救われます。(30代女性) 【死ぬの

いいわ(藤井風)』あなたとこのままおサラバするより死ぬのがいいわ「死と恋愛を絡めた歌の中で、この歌詞を繰り返すこの歌がとても印象に残った。(20代女性)

【ひこうき雲(荒井由実)】

あの子の命はひこうきぐもというものの悲しさ(50代女性) 【木蓮の涙(コブクロ)】さよならと言いかけて何度も振り返る、という歌詞です。(20代女性) 【人

生の扉(竹内まりや)】信じられない速さで時は過ぎ去ると知ってしまったら、どんな小さな事も覚えていたいと心が言ったよ。(60代以上男性) 【涙そうそう(森山良子ほか)】きつというか会えると信じ生きてゆくというフレーズがシンプルですが、亡くなった人といつか会える、再会できると信じています。(20代男性)

亡くなった人に思いを馳せるとき、流れてくるメロデー。耳にした瞬間に大切な人の笑顔が浮かんでくる歌詞…ささやかだけれどかけがえない日常に、彩りや慰め、気づきや元気を与えてくれるのが、歌の力なのかもしれません。

●『生と死』にまつわる著名人の言葉

「人は死んでも、その人の影響は死ぬことはない(キング牧師)」誰もが迎える死は怖い、私たちが残した影響は死ぬことはないから頑張ろうと勇気を貰えた。(20代女性) 【明日死ぬかのように生きよ。永遠に生きるかのように学べ。(ガンジー)】

生きている間は、年齢を問わずに学ぶことができる。死はいつ来るのかわからないから、悔いの残らない行いを普段からするようにと、言われている。(30代女性) 【めしを喰って静かに息をついていたらいつの間にか日が暮れて気がついた時は墓場の中(相田みつを)】この言葉で人生はあつという間だから、大切に生きようと思えた。(20代女性)

共感できる著名人の言葉を折に触れて思い出し、最期を迎える瞬間に「いい人生だったな…」と思えるような生き方をしたいですね。

【東照公のご遺訓】

忍耐の中から様々な「気づき」を得た徳川家康に学びます。

◎及ばざるは過ぎたるよりまされり

現代訳：何事もやり過ぎることは、やり足りないことと同じくらい良くない

論語の「過ぎたるは猶及ばざるが如し」という言葉を、家康なりに解釈したものだといわれています。何事も行き過ぎは良くないと言うことです。仕事のやりすぎ、真面目すぎ、賢すぎ、でしょうか。

「足りていない」と思うことで、もっと成長しなければならぬというモチベーションが生まれ、常に緊張感を持つて様々なことに取り組めるからだと考えたからかもしれません。

語り愛

カレンダー

●九月のご命日●

「故人様と同じ日に、
こんな方がお亡くなりになっています…」
そんな一言をきっかけに、
傷心の喪主様へ、さりげないたわりのお声がけを。

一日 (金)

昭和九年 (一九三四年)

竹久夢二 (画家)

数多くの美人画を残す。その抒情的な作品は「夢二式美人」と呼ばれ、大正浪漫を代表する画家。

二日 (土)

昭和四十四年 (一九六九年)

ホー・チ・ミン (政治家)

植民地時代からベトナム戦争まで、ベトナム革命を指導した。

三日 (日)

明治十四年 (一八八一年)

イワン・ツルゲーネフ (作家)

十九世紀ロシア小説家の一人。『父と子』、『初恋』などを著し西欧へのロシア文学の紹介に大きな役割を果たした。

四日 (月)

昭和四十年 (一九六五年)

アルベルト・シュヴァイツァー (医師)

医療伝道を実践してきたことに対して一九五二年にノーベル平和賞を受賞した。神学者・哲学者・オルガニストとしても活躍。

五日 (火)

昭和六十一年 (一九八六年)

六代目 笑福亭 松鶴 (落語家)

「上方落語界の四天王」のひとつと呼ばれた落語家。「真打の大ネタ」と称される「らくだ」を得意とした。

六日 (水)

平成十年 (一九九八年)

黒澤明 (映画監督)

世界的に名が知られた日本映画の巨匠。日本では「世界のクロサワ」と呼ばれた。代表作は『七人の侍』、『赤犬』など。

七日 (木)

昭和十八年 (一九四三年)

上山英一郎 (経営者)

大日本除虫菊 (金鳥) 創業者・元社長。一九〇二年に日本初の渦巻き型蚊取り線香を発売した。

八日 (金)

昭和五十六年 (一九八一年)

湯川 秀樹 (物理学者)

中間子の存在を理論的に予言。後に理論の正しさが証明され、一九四九年に日本人として初めてノーベル賞を受賞した。

九日 (土)

昭和五十一年 (一九七六年)

毛沢東 (政治家)

中国共産党の創立、中華人民共和国を建国する。死去するまで同国の最高指導者の地位にあった。

十日 (日)

昭和八年 (一九三三年)

古賀 春江 (洋画家)

本名は亀雄。大正期に活躍した男性の洋画家。日本の初期のシュルレアリスムの代表的な洋画家。

十一日 (月)

正徳二年 (一七二二年)

ジョバンニ・ドメニコ・カッシーニ (天文学者)

木星の大赤斑や土星の四つの衛星を発見したほか、経度の計測に成功した。

十二日 (火)

昭和四十三年 (一九六八年)

トミー・アーマー (ゴルフ)

クラブの改良と製作に情熱を注ぎ、現在でも世界的逸品として愛好者が多い。

十三日 (水)

天正二十年 (一五九二年)

ミシェル・ド・モンテーニュ (哲学者)

人間の生き方を探求して綴り続けた名著『エッセー』は、フランスのみならず各国に影響を与えた。

十四日 (木)

昭和五十七年 (一九八二年)

グレース・ケリー (俳優)

『喝采』でアカデミー主演女優賞を受賞。モナコ大公レーニエ三世と結婚した。

十五日 (金)

平成二年 (一九九〇年)

土門 拳 (写真家)

社会的リアリズムに立脚する報道写真家。日本の著名人や庶民などのポートレート撮影した。

十六日(土) 大正十二年(一九二三年)

大杉 栄(社会運動家)

思想家、作家、社会運動家、アナキスト。
『ファール昆虫記』の翻訳でも知られる。

十七日(日) 天明六年(一七八六年)

徳川 家治(政治家)

江戸幕府第十代将軍。余暇を趣味の世界に没頭。将棋は奥義を極め『将棋攷格』を著した。

十八日(月) 天明三年(一七八三年)

レオンハルト・オイラー(数学者)

指数関数と三角関数の間の関係を与えるオイラーの公式はか解析学に多大な業績を残した。

十九日(火) 明治三十五年(一九〇二年)

正岡 子規(俳人)

俳句、短歌、新体詩、小説、評論、随筆など多方面に渡り創作活動を行う。

二十日(水) 大正二年(一九一三年)

岡倉 天心(美術家)

横山大観・菱田春草らと日本美術院を創立。ボストン美術館の東洋部長となり、日本美術を紹介した。

二十一日(木) 昭和八年(一九三三年)

宮沢 賢治(作家)

詩人、童話作家。郷土岩手に基づいた創作を行う。『風の又三郎』『銀河鉄道の夜』で知られる。

二十二日(金) 平成八年(一九九六年)

藤子・F・不二雄(漫画家)

藤子不二雄(A)と共に藤子不二雄としてコンビを組み作品を発表。代表作は『ドラえもん』、『バーマン』など。

二十三日(土) 昭和十四年(一九三九年)

ジグムント・フロイト(精神分析学者)

神経症研究、心的外傷論研究、自由連想法、精神分析を創始。著作に『夢分析』他。

二十四日(日) 明治十年(一八七七年)

西郷 隆盛(政治家)

長州藩の木戸孝允と薩長同盟を結び、倒幕運動の中心人物になった。

二十五日(月) 宝暦十二年(一七六二年)

山脇 東洋(医学者)

日本ではじめて人体解剖を行い『蔵志』という記録を残した。

二十六日(火) 明治三十七年(一九〇四年)

小泉 八雲(作家)

本名、ラフカディオ・ハーン。日本に帰化して小泉八雲と名乗る。欧米に日本文化を紹介する著書を数多く残した。

二十七日(水) 大正六年(一九一七年)

エドガー・ドガ(画家)

フランス印象派の画家らと同時期に活躍。パステルを使った肖像画で知られる。

二十八日(木) 大正四年(一九一五年)

斎藤 一(警察官)

幕末期に新選組の隊士として活動し、戊辰戦争では旧幕府軍に従い新政府軍と戦った。明治維新後は警視庁の警察官となった。

二十九日(金) 平成二十五年(二〇一三年)

山崎 豊子(作家)

『白い巨塔』や『沈まぬ太陽』など、巨大組織の暗部や戦争のむごさを浮き彫りにする小説を書き続けた。一九五八年に直木賞を受賞。

三十日(土) 宝暦十二年(一七六二年)

ジャック・ダビエル(眼科医)

白内障治療として囊外摘出術を行ったことで有名。

「おくりびと」を世界へ 中国の葬祭イベントで 技術を実演

葬儀ブランド「おくりびとのお葬式」を運営するデイパーチャーズ・ジャパン株式会社（東京都）の社長兼納棺師木村光希が、昨今「死」への向き合い方が見直されている中国で納棺のデモンストレーションを行いました。

向き合い方が変化していることが挙げられます。

日本でも死に関する話題を避ける風潮はよく見られますが、中国ではよりその風潮が顕著で、死に関する話題は禁忌とされてきました。葬儀に関する職業を避ける風潮も強く、葬祭業関係者の多くは自分の職業を隠そうとする文化があります。中国の高齢者は死に関する話題を避けるせいで、病状や死後について家族と話し合わず、何の準備もしないまま亡くなってしまうことが多く、その結果、残された家族にも大きな悔いが残ってしまうことになります。

映画『おくりびと』は、世界67の国と地域で公開され、世界の映画祭で総受賞数103冠を誇るなど海外でも多く鑑賞されてきた作品ですが、中国では劇場公開されたことがありませんでした。しかし2021年に新たに製作された「4K修復版」が中国全土で初めて劇場公開され、旧作ながら異例の大ヒットを呼びました。その理由として、中国における「死」への

は、長年の一人っ子政策

の影響で急速な少子高齢化が深刻な社会問題となっており、人生の最期をどう過ごすかといった話題が高い関心を集めています。死を禁忌として避けるのではなく、正面から向き合おうとし始めているのです。変化に関心が高まっている中で映画『おくりびと』は公開されたため、大きな話題を呼び大ヒットしました。

日本の「おくりびと」の技術を中国へ

中国で「死」との向き合い方への関心が高まっている中、木村光希が中国葬祭協会から招待を受け、2023年6月に中国・青島で開かれた展示会イベント『中国葬儀博覧会』で納棺のデモンストレーションを行いました。木村はこの経験をもとに、アジア地域（韓国・中国・台湾・香港）で納棺技術の指導を行い、おくりびとの技術を世界へ伝え始めたのです。



2023年7月25日
PR TIMES
デイパーチャーズ・ジャパン株式会社

たためるフォーマル

「帰省時の荷物がかさばる」「長時間の着用も楽でいたい」「自宅で洗濯したい」などの声に応える「たためるフォーマル」。着用の美しさとお手入れのしやすさを兼ね備え、冠婚葬祭全ての場面でご愛用いただけます。シワになりにくい素材なのでコンパクトに折畳み、「収納用ポーチ」に入れて持ち運びできます。移動先でのお着替えや遠方での葬儀にも安心です。伸縮性に優れており肌触りもやわらかく、きちんと見える佇まいで長時間の着用も快適な着心地の良さを実現しました。お手入れもラクラク、ご家庭の洗濯機で水洗いすることが出来ます。



2023年7月21日
PR TIMES（株式会社東京ソール）

ほっこりお墓タイム

笑ってはいけないお葬儀

①実父の葬儀の後、母が「お父さん、ダイイングメッセージを残さなかったから」とつぶやいたのをスルーしたが、後に「エンディングノート」と言いたかったのが判明した。

②祖父が危篤になった時、祖母は「12月はみんな忙しいから死なないで欲しい」と祈ったそう。祈りは通じたのか、祖父はヤマを乗り越えた。翌月祖母は「お正月だから」と祈った。さらに翌月は「寒いからみんなに悪い」と。3月祖父は亡くなり、葬儀後祖母に聞いた「延命をお願いする理由が無かった、春だし」と思ったそうです。

③祖父が亡くなった時に父が、火葬場でスタッフの方に「焼きあがりは何時ですか？」と聞いたのを見ていた親戚が吹いた。



花&仏壇&お墓 ニュースあれこれ…



仏花専門新ブランド『BUCCCA』を発表

株式会社TAJIRO 工房（京都府）は、京都の工房から、仏花専門ブランド「BUCCCA」をリリースいたしました。ライフスタイルや、宗教、慣習が多様化する現代においても、違和感がなくリビングや自室、寝室にもフィットするデザイン性が高い仏花を提案します。

故人に添えるお花は、造花ではなく生花が好まれます。一方で慌ただしい生活やお手入れに苦労するという声に応え、生花をプリザーブドフラワー（特殊加工した枯れないお花）を花材として採用し、本物の花でありながら枯れずに手間のいらない、デザイン性が高く現代の生活に寄り添える仏花です。



2023年8月1日
PR TIMES
(株式会社TAJIRO 工房)

弔慰用うるし電報「菊あかり」を発売

NTTは、新たに弔慰用電報台紙、「菊あかり」を全国で販売開始いたしました。

気品高いデザインは、葬儀、告別式、法事、法要などお悔やみの場に相応しく、公私を問わず大切な方に哀悼の意をお伝えします。

黒塗りの漆の上に、繊細な菊や螺鈿風の装飾を加え、高級感と上品さのある弔慰用のうるし電報です。凛とした雰囲気は格調高く、ご遺族の悲しみに安らぎを添え、心を静かに癒します。

電報台紙料金
5830円（電報料別）



2023年6月23日
日本経済新聞

暮らしに寄り添う美しいお仏壇

丸喜株式会社（京都府）は「monoシリーズ」をリリースします。使われている桐材は、日本の四季による湿度や温度の変化の中、大切なお位牌や仏具などの傷みを和らげます。桐の上品な白肌と木目に、柔らかな温かみのある色合いを合わせました。桐ならではの「ほっと癒されるお仏壇」に仕上がっています。

製造も永く桐箆箆造ってきた歴史をもち、桐材を熟知している福岡県大川市で作られます。

インテリア性の高さに加え、使いやすい機能を盛り込み、各パーツの組み合わせを変えることでお仏壇をカスタマイズできます。



2023年7月27日
PR TIMES (丸喜株式会社)

世界のお葬式



捧げられる花の本数は、偶数でなくてはならない
【ロシア】

ロシアでは通常、葬儀は人が亡くなって3日目に行われます。その日の朝に故人の家族は霊柩車で遺体安置所に向かいます。遺体を引き取り棺とともに墓地の中にある教会へ向かい、正教会の特別な儀式である埋葬式が始まります。埋葬式では聖職者が故人をあの世に送る祈禱を捧げ、故人が生前犯した罪の許しを神に乞い、神の御国での平穏を祈り

ます。祈禱が行われている間、あるいはそれが終わったあと、親族は棺の中の故人に口づけをし、生花を捧げます。お花の本数は、偶数でなくてはなりません。戦争で亡くなった兵士に2本の花を贈ったのが、その始まりで1本は亡くなった彼らに、もう1本は神に捧げられるのです。ロシアでは生花を故人とともに葬るという伝統はないので棺から一旦花を取り出し、棺を霊柩車に乗せ墓地へ。棺を墓の穴に入れる際に親族が花またはときにコインを投げ入れます。これは、あの世で故人が豊かでいられるようにという願いから行われるものです。葬儀後は毎年、「パスハ」（復活大祭）のときに墓を訪れ墓をきれいにし、故人にお菓子や色をつけたゆで卵、あるいは1杯のウォトカを捧げます。

今日は 何の日？

9月(長月・September)

1日(1960年)
防災の日

1923年の同日発生した関東大震災の大惨事を忘れないようにと国土交通省が制定。

2日(1982年)
リニアモーターカー
が有人走行

国鉄が宮崎県日向市のリニア実験線で開発中の磁気浮上式リニアモーターカーが、世界初の有人走行に成功。

3日(1981年)
女子差別撤廃
条約発効

1979年12月に行われた国際連合第34回総会で採択され、1981年に発効した。

4日(1994年)
関西国際空港
開港

大阪府泉佐野市に開港。日本初の24時間運用空港であり、すべてが人工島からなる海上空港としても日本初。

5日(1977年)
王貞治が
国民栄誉賞

同年9月3日にホームラン世界新記録を達成した王貞治選手に、国民栄誉賞が贈られる。

6日(2006年)
悠仁親王殿下
ご誕生

文仁親王妃紀子殿下が悠仁親王殿下をご出産され、皇室としては41年ぶりとなる男児の誕生となった。

7日(1960年)
男子体操
初の金メダル

ローマで開催された夏期オリンピックで、日本の男子体操が団体体操で初めて金メダルを獲得。

8日(1665年)
国際識字デー

当時のイラン国王が、軍事費の一部を識字教育に回すよう提唱したことを記念して制定された。

9日(1948年)
北朝鮮成立

ソビエト連邦の占領統治が終了し、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)が誕生。初代主席には金日成が就任。

10日(1960年)
カラー TV
放送開始

東京、大阪の5局で本放送を開始。放送時間はNHKで1時間、民放で2時間40分程度であった。

11日(1900年)
日本初の
公衆電話設置

東京・上野駅と新橋駅の構内に日本初の公衆電話が設置される。当時は自動電話と呼ばれた。

12日(1940年)
ラスコー洞窟で
洞窟壁画発見

フランスのラスコー洞窟にて、1万5千年前に描かれた洞窟壁画が発見される。

13日(1985年)
スーパーマリオ
発売

任天堂がファミコンソフト「スーパーマリオブラザーズ」を発売。全世界で4,024万本の売り上げを記録する。

14日(1960年)
石油輸出国機構
(OPEC) 発足

石油輸出国の利益を守るため、イラン、サウジアラビア等の5カ国により発足。現在の加盟国は12カ国。

15日(1958年)
日本初の
缶ビール登場

朝日麦酒(現在のアサヒビール)が日本初となる缶入りビール「アサヒゴールド(缶)」を発売。

16日(1948年)
マッチの日

配給制だったマッチの自由販売が初めて認められたことを記念して制定された。

17日(1964年)
モノレール
開業記念日

日本で初めて、東京の浜松町〜羽田空港間で開業された。開業は東京オリンピック準備の一環であった。

18日(1971年)
カップヌードル
発売

日清食品が世界初のカップ麺となる、「カップヌードル」を発売。現在世界80カ国で発売されている。

19日(1991年)
アイスマン
発見

アルプス山脈の水河で約5300年前の男性のミイラ「アイスマン」が発見される。

20日(1519年)
マゼランが
世界一周航海

マゼランが5隻の軍艦・265人とともにスペインを出航。1522年に史上初の世界一周を成し遂げた。

21日(1988年)
B'z デビュー

日本で最もアルバムを売り上げたアーティストとしてギネス世界記録に認定されている。

22日(1887年)
孤児教育会
創設

石井十次が岡山市内に、日本初となる孤児院「孤児教育会(後の岡山孤児院)」を創設する。

23日(1871年)
散髪脱刀令が
布告

明治政府によって布告され、髪型については勝手にし、華族、士族は刀を差さなくても構わないとした。

24日(1965年)
みどりの窓口
開設

国鉄が指定券発売窓口「みどりの窓口」を全国の主要152駅と日本交通公社の83カ所の営業所に開設。

25日(1985年)
藤ノ木古墳
発掘

未盗掘で埋葬当時の姿がほぼそのまま残っており、当時の埋葬儀礼を解明する上で貴重な資料を提供した。

26日(1978年)
日本語ワープロ
発売

東芝が世界初の日本語ワードプロセッサ1号機を製品化し、発売する。価格は1台630万円で重さは220kg。

27日(1917年)
日本初の女性
ドライバー誕生

栃木県の女性(当時23歳)が自動車運転免許試験に合格。これに由来して「女性ドライバーの日」が制定される。

28日(1979年)
NEC が
パソコンを発売

日本電気(NEC)がパーソナルコンピュータ「PC-8000シリーズ」を発売。パソコンブームの火付け役となった。

29日(1918年)
本格政党内閣
成立

原敬が初めて、衆議院に議席を持つ政党の党首という資格で首相に任命。原内閣が成立した。

30日(1992年)
日本最初の
ホームページ公開

高エネルギー物理学研究所の森田洋平が作成したウェブページが公開され、日本最初のホームページとなる。

